

行政視察等報告書

平成30年11月9日

米子市議会議長様

会派名 政英会

代表者氏名 尾 沢 三 夫

提出者氏名 稲 田 清



下記のとおり報告します。

記

項 目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	稲田 清、門脇一男、三嶋秀文、渡辺穰爾
期 日	平成30年10月31日から平成30年11月2日まで
〔概 要〕(年月日・場所・内容) 10月31日 埼玉県和光市 「和光市立下新倉小学校建設(和光市新設 小学校建設設計業務委託プロポーザル)に ついて」 11月1日 東京都国立市 「避難所運営マニュアルについて」 11月2日 千葉県習志野市 「市民参加のまちづくりについて」	
〔所 感〕 別紙のとおり	
経 費	旅費総額 264,724円

和光市行政視察報告書

【1】視察項目

和光市立下新倉小学校建設（和光市新設小学校建設設計業務委託プロポーザル）について

【2】視察先

和光市立下新倉小学校（埼玉県和光市下新倉5丁目21番1号）

【3】事業の経緯

（1）事業に至った背景について

埼玉県和光市は、東京都に隣接しているベッドタウンであり、2030年まで、人口の増加が見込まれている状況である。市の中心を東西に分断する格好で鉄道（東武東上線）が走っている。以前は、北側地区に3校、南側地区に5校の配置であったが、北側の人口が増加し、新設する機運が高まっていた。そこで、平成20年6月に議会に対して陳情が出され全会一致で可決されたことを受け設計に入った。当初は市の教育委員会による設計の予定であったが、幅広く住民ニーズを具現化することを念頭に、プロポーザル方式が採用された。

（2）公募型プロポーザル方式について

平成25年10月に公募型プロポーザル実施要領が公表され、参加表明事業者が10者であり、そのうち5者が第一次審査を通過し、その5者で第二次審査（公開プレゼンテーションおよびヒアリング）を行った結果、設計受託候補者が決定された。特徴として、校舎棟と地域開放棟を明快に2ブロックに区分し、その間に多用途に活用できる市民広場が設置されている。選考委員長のコメントとして「設計、建設の段階においても、市民による小学校づくりの体制を維持していただきたい」との意向が示され、後のワークショップ開催へと繋がった。

（3）ワークショップについて

「学校に併設される施設の複合化のメリットを引き出すために」のコンセプトのもと、①図書館分館のあり方、②保育クラブ、児童館のあり方、③市民広場・パークアベニューと防災・防犯のあり方の3つのテーマを、前半は各テーマ毎に、後半は各テーマを複合的に検討が行われ、1階部分として「地域への開放ニーズの高い特別教室の配置」、「開放しやすい屋内運動場」、

「児童館・保育クラブからも活用しやすいグラウンド」が、2階部分として「相互利用しやすい多目的室」、「図書館分館との一体的な利用も可能な学校図書室」の各項目が示され、基本設計に反映された。

【4】施設について

ワークショップを経て示された項目が反映されており、加えて、校舎棟の入り口にある「広い森のホール」は、全校児童が階段に座る格好でコンサートなどの演奏会を行うことができるなど斬新な設計が施されている。他にも、避難経路として1階は即座にグラウンドへ避難でき、2階は各教室がベランダで繋がっており、複数方向への避難経路が確保できている。他にも、各教室の廊下側の壁がスライド式の壁で、普段は開放したままで授業が行われている。ワークショップで示された項目は勿論であるが、設計者のコンセプトによる部分もしっかりと具現化されている。(視察時間が授業時間であり、校舎内の撮影は一切行わなかった故、添付の学校案内の冊子を参照されたい。)

【5】考察

今回は校舎の新設であるが、米子市も児童・生徒数の減少等の理由により、統廃合にあたる事案が想定されており、その際、民間の知見を取り入れる方法も検討に値するのではと思い視察を行ったが、それ以上に、学びの場として学校はどうあるべきかを強く考えさせられる部分があった。具体的には、前出の「広い森のホール」、「教室の壁を取り除く」、「円滑な避難経路の確保」を記したが、他にも「災害に備えた設備」、「木材を多く使用した、安らぎのある空間環境」などの特徴が数多く施してあった。校舎の新設に限ったこととしてではなく、教育環境の充実の為に、何が必要か、何が出来るのかをしっかりと検討していくことの重要性を認識できた。

説明の様子



校舎玄関前



会派「政英会」行政視察（2日目）報告

視察日程 平成30年11月1日 午前10時より12時まで

視察場所 東京都国立市

視察項目 「避難所運営マニュアルについて」

国立市は東京都の多摩地域にある市で、人口が73,655人(27年国勢調査)、面積は8,15k㎡である。人口は本市の約50%、面積は全国で4番目に小さい市である。

小学校8校、中学校3校の全てが災害時の指定避難所となっており、それぞれの避難所に対し、独自の「避難所運営マニュアル」が作成されている。

国立市では、平成23年に発生した東日本大震災より以前の平成18年から地域防災計画の見直しをし始め、平成20年には避難所運営のためのガイドラインを作成し、「平常時から避難所運営の習熟を図ることが望ましい」とされた。平成21年度からは避難所運営マニュアルの検討が始まり、平成25年度には全ての避難所のマニュアルが作成済となった。

その後は主に避難所運営訓練を中心としての意識啓発活動を行っていたが、ここ2・3年は東日本大震災の教訓から、学校と地域が協力して訓練を行う事例が増えてきた。

平成29年度は計10回の避難訓練が行われ、農業地域、住宅密集地、団地、商業地域等、それぞれの地域形態に合わせた訓練となっている。

避難所で最も気になっていた仮設トイレも、各学校に1台備蓄しており、その他、ボックストイレ、スケットトイレも備蓄がなされていた。また、5施設には下水道管に直結したマンホールトイレが設置しており、今後も順次設置予定とのことであった。仮設トイレについては米子市においても十分に検討すべきで事項である。

国立市における今後の課題

- ・避難所運営の課題整理、訓練バリエーションの多様化。
- ・避難所運営マニュアルの見直し。
- ・避難所運営委員の多様化と訓練等への反映。
(中学生ボランティアの参加、大学生の加入、保護者との連携、企業・商店との連携等)

近年、災害はいつどこで起こるか分からない状況となっている。明日、米子市に大地震あるいは豪雨災害が起こっても何ら不思議はない。

「地域防災力の向上・災害に強いまちづくり」の構築は、本市においては喫緊の課題でもある。

本市も、災害に備え多様な避難訓練を実施し、各避難所の情勢にマッチした避難所運営マニュアルを早急に作成すべきであると強く感じた。

市民参加のまちづくりについて（習志野市）

多様化・複雑化する市民ニーズに対し、スピード感を持って的確に対応するためには、行政のみの力ではもはや不可能であり、今後は、本市においても、市民の皆様方との協働の市政運営が求められるところ、「市民本位のまちづくり」を目指して、住民参加を前提としたボトムアップ型のシステムを構築している千葉県習志野市にて、先進地視察を行った。

習志野市では、昭和40年代の高度成長期に、急激な人口増加によって、市民ニーズの高まりと多様化、社会資本整備（道路、下水道、教育施設）の迅速な対応が求められていたが、今まで通りの役所仕事では、これらの課題に対応できないとの課題意識を持ち始めた。

そして、その解決策として、職員が自分たちのまちの実態を知らずに市民サービスを行うことは不可能であり、まずは、職員が自分たちのまちの声を聞く、知るとの認識の下、通常業務とは別に職員を一定の地域に担当者として配置し、市民との対話交流を通じて、各地域の実情や問題点を把握、集約する職員の「地域担当制」を昭和43年に発足させた。

地域担当制の役割は、各地域に担当職員を配置することによって、①より広く住民の意向・要望を受け止め、市政に反映させる、②職員の姿勢・発想を市民本位の行政へと転換する意識改革、③行政に対して市民が意見を言いやすい体制を確立し、その意見を何らかの形で施策として反映させる、④市民に対し、「もの申す型」→「考える型」→「行動する型」へと発展させることであったが、平成4年からは、その発展型として、地域ごとに、町会・自治会、子供会、消防団、学校、PTA、高齢者団体、各種団体等をメンバーとする「まちづくり会議」を立ち上げ、地域担当制と連動させながら、市民との協働のまちづくりを進めている。

その効果としては、市民側には、①地域における連帯感の醸成、②「まちづくりの担い手」としての責任感と地域力の醸成、③市政への参画意識の高揚が挙げられ、市役所側には、①地域との信頼関係と相互理解の促進、②更にきめ細やかな市民本位のまちづくりの実現、③市民協働の理解を図るための実践的な職員研修の場としての活用等が挙げられた。

本視察を経て、本市においても、今後、市民自らがまちづくりの担い手であるという意識の醸成と、その意識をいかに市政運営に結び付けていくのかというシステムの構築が必要不可欠であるとの認識を改めて得たところである。

習志野市では、職員が積極的に地域に出向き、地域の声を聞き、市政に反映させていくというシステムを昭和40年代から続けているという歴史があるが、そのノウハウを本市の市政運営にも活かしていけたらと思う。

行政視察行程（会派：政英会 稲田 清、岩崎康朗、門脇一男、三鴨秀文、渡辺穰爾 5名）

月 日	行 程	宿 泊 先
10/31 (水)	7:20 8:40 10:51 11:07 11:18 11:46 11:55 12:07 (昼食) 米子空港 —— 羽田空港 ===== 品川駅 == 池袋駅 ===== 和光市駅 ・ ・ ^{しもにいくら} 下新倉小学校 ANA382 便 京急空港線快特・印旛日本医大行 JR 山手線外回り 東武東上線準急・川越市行 (送迎)	パレスホテル立川 ☎042-527-1111
	和光市行政視察 午後2時00分から午後4時00分まで 【議会事務局】 ☎：048-424-9108 【調査項目】和光市立下新倉小学校建設（和光市新設小学校建設設計業務委託プロポーザル）について	
	16:31 16:36 16:50 17:08 17:13 17:19 和光市駅 ===== 朝霞台駅 ** 北朝霞駅 ===== 西国分寺駅 ===== 立川駅 東武東上線準急・森林公園行 徒歩 JR 武蔵野線・府中本町行 JR 中央線・高尾行	
11/1 (木)	9:33 9:39 立川駅 ===== 矢川駅 ** 国立市役所 JR 南武線・川崎行 徒歩(約8分)	JR 東日本ホテル メッツ津田沼 ☎047-473-0007
	国立市行政視察 午前10時00分から午前12時00分まで 【議会事務局】 ☎：042-572-1193 【調査項目】避難所運営マニュアルについて	
	(昼食) 12:52 13:34 13:37 14:13 市役所 ・ ・ ・ 国立駅 ===== 御茶ノ水駅 ===== 津田沼駅 タクシー JR 中央線快速・東京行 JR 総武線・津田沼行	
11/2 (金)	宿泊先 ・ ・ ・ 習志野市役所 タクシー	
	習志野市行政視察 午前10時00分から午前12時00分まで 【議会事務局】 ☎：047-453-9232 【調査項目】市民参加のまちづくりについて	
	12:30 13:04 13:14 13:22 13:32 13:53 15:00 16:25 津田沼駅 ===== 秋葉原駅 ===== 浜松町駅 == 羽田空港 —— 米子空港 JR 総武線・三鷹行 JR 京浜東北・根岸線快速・大船行 モノレール ANA385 便	

旅費計算表

平成30年10月31日 ～ 平成30年11月2日 (2泊3日)

政英会 会派行政視察
埼玉県和光市・東京都国立市・千葉県習志野市

月 日	区 間	鉄道路線名	区 間 キ ロ 数	目的地ま でのキロ 数	運 賃	グリーン	急 行 料 金		日 当 宿 泊 料		
							特 別	新 幹 線	議員1,500円	甲 14,800円	乙 13,300円
10/31	米子空港～羽田空港	ANA			15,190				1,500		11,800
(水)	～品川	京急			410						
	～池袋	JR			260						
	～和光市	東武			250						
	和光市～朝霞台	東武			150						
	～北朝霞	徒歩									
	～西国分寺	JR			390						
	～立川	JR									
11/1	立川～矢川	JR			140				1,500		9,720
(木)	国立～御茶ノ水	JR			920						
	～津田沼	JR									
11/2	津田沼～秋葉原	JR			470				1,500		
(金)	～浜松町	JR									
	～羽田空港	モノレール			490						
	～米子空港	ANA			15,890						
計	議員旅費			60,580	34,560	0	0	0	4,500	0	21,520
	随行旅費			0							

出席議員 稲田 清、門脇一男、三嶋秀文、渡辺穰爾 (岩崎康朗 欠席)

議員旅費	60,580 × 4名 =	242,320 円
お土産代	648 × 3カ所 =	1,944 円 (和光市、国立市、習志野市)
タクシー代	1,360 × 1台 =	1,360 円 (国立市役所→国立駅)
タクシー代	1,910 × 1式 =	1,910 円 (津田沼駅⇄習志野市役所)
岩崎議員キャンセル料	17,190 × 1式 =	17,190 円 (航空券一式@16,110、JR@980、モノレール@100)
合計		264,724 円